

平成16年 3月28日(月) 午前6:58 第1子 長男 出産 3400g

今思えば、この1トにたどりつくまで、当たり前だけに、その10ヶ月という月日が流れていた。昨年の祇園祭の花嫁行列、長年、貝学専門だった私たちが、誘いもあり、花嫁姿なんて親にいつかはやらせよと、出来子がわからないし、2万円の記念に♡と思い参加した。その時までには生理がおくれていて、お腹の中に小さな命が痛っていたのだ。下腹部がシクシク痛むのも、もしかして遅れている生理が来子からなのだろう。帯がゆるまのいいだろう。なんて妊娠説を否定できない私の心は、ちょっと不安定だったかもしれない。でも、もし妊娠していたら、何があっても産んであげようとは思っていた...

それから3日後、市販の妊娠検査薬の判定は陽性。假産んで2人で育てよう!と言ってくれた。そして私は流行におかれごとなく、できちゃった!? 作っちゃった!? 結婚の道を進むことになった。お互いの両親への面識(順序は当然のようだが!?)もないところからのスタート。ドタバタな妊娠初期だった。つわりがはじまり直には両親へのあいさつも済んで参婚式の準備へと、妊娠中期・安定期に入って式をあげ、赤ちゃんを待つ家庭が出来た。そんなこんなな妊娠生活を後半。私は実家のある田島町へ戻ってきた。親友が中嶋助産院で3人の子を無事出産していて、話をよく聞いていた。仕事上、病院での出産~~経験~~をまのあたりにしていた私は、迷うことなく原乃先生にみていただくことにした。「お産は何もしないのが一番」とてもとても意味深い言葉だった。私は病院で手をくわえつくさず、あげ、病院でのお産なのに仮死状態などで生まれてくる赤ちゃん達を仕事でつねに見てきた。NICUへつれてこられ、吸引チューブをのどの奥までつっこまれ、酸素をかみかみ与えられ、自分がしていたことが赤ちゃんに果たしてやさしい行為だったのか? ましてやひと様の子にと云、その時、その子にとって必要な行為をしていたとして、私は赤ちゃんという人間を、人として扱うことができていたのだろうか... 里帰りをしてから1か月の間、先生からビデオや本を貸していただき、読んで読んで... 今まで集中して読書にあぐらをかいてきたことが、一度もなかった私を母はめづらしそうに見ていた。助産師の免許が欲しい、と少し思ったが、それから助産入学のための勉強が必要である。第1のカギで私はあきらめた。でも、里帰り、理想的な産婆さんに出会えたことで、楽しいお産、素敵なお産が絶対に出来ることを確信し、私の環境の恵まれすぎていることに一人が関心した。田島に中嶋助産院があったし、原乃先生が住んでいたことを神様に感謝した。

AM 2時

予定日を4日すぎた夜中、トイレに起きた。おしこだけではない量が出た気がした。が、気のせいじゃ無い。様子をみた。2時間後、やっぱりトイレに起きた。膣からドロッと流水出た感あり。トイレでみると出血。量も少しだけ。これが産後(おしこ)かあ...などと思いつた朝まで寝た。おなかからゴキリ腹が痛むのを時々感じ、これから何かが始まるという胸騒ぎがあった。昼間をずらりと生理のように出血量りの何かが出つづけており、ナプキンを変えていた。昼過ぎに、麻呂先生にTEL。おしこがあまり出ました!と報告する。おしこしたからお風呂もいいし、ふつうに生活していいのでお風呂か! 声をきかせてあげて安心する。PM 4時頃、昼寝から陣痛?らしき腹痛で起き、時計をみた。5~6分間隔で1分間くらいの痛み。これは陣痛だ!と気付いたのがPM 5時。麻呂先生にTEL。出血も続いていることも伝え、お産はいつかおしこしたから、泊まる用意していらして下さい。一度診ておましょう。とのこと。PM 9時半、中嶋助産院につく。お産の診てもらおう。おとあれ!? これ破水してるわね? 先生の声がある。ん? あれ!? まじですか? 私のバカな頭の記憶を呼び起こす。思いあたる。AM 2時のトイレ! おしこは気のせいではいけないらしい。一応産科医師の私。自分の体のことになるとそんな資格もあてにならないです。もっと驚いた事。それは子宮口1.5cm... ない!? 気が遠くなった。お産方~午前中のお産にたどり着くとのこと。陣痛は時間と共にドンドンくる。涙がくる度、麻呂先生が腰を叩いてくれ、呼吸を誘導してくれる。私は子宮口に「開けがマ」状態で、広がれ~広がれ~と言いつづけた。そして赤おやいほ、もう少しまって! 今ひろげている戸付だから!と心のなかでつぶやいた。痛みの間隔がもっと短くなって来て、AM 5時をまわると、先生がこれからだからね!と1リットル、2リットルのホットミルクを作ってくれた。甘党の私には、とってまおいしいスナックドリコトだった。飲みほしてから、本格的に痛みを耐えるのが辛くなってきた。しほみたは涙はすごいパワーだった。生まれてくる命のエネルギーそのものだ。そして他に例えたら便意。外は明るくなり、素晴らしい青空の広がる日。AM 6時58分、男の子が生まれた。初めての対面の前に元気のいい声をきいて安堵感と嬉しさと涙が出た。その頃、たぶん様子は東京からこちらへ向かうため東武線の中。早朝5時を過ぎてしまっていて、立ち合いに間に合わず、いから残念がっている。そのおかげで立ち合いはして欲しかったけど、見られていたら...と考えると、初めてのことで「痛みを予測もつかず」とうにでましてくれ~状態の私を、夫の目に触れなくて良かった~と思う。次に子供を授けたら、家族でお産ができるといいな。2回目なら少しは余裕があるのではないかな!

ながながと 9/2から書いて 文もまとまっていはいし。こゝ最近 字もろくに書いてないので 漢字が「あから」ていり。文章カに欠けてるが。初めての出産。私の生涯の忘れられないシーンとなりました。分娩の時のことを思い出して スヤスヤと眠る誰の子ではない。私と夫の子をみる。今でも (産後4日目) 涙が止まりません。陣痛に耐えきれず。途中 本当に死にそうだった。くじけそうだった私を 助けてくれた。寝ずに看てくれていた 康江先生。本当にありがとうございました。勝太が生まれる直前。うぶ高トによく登場されている 于ヨさんが来てくれ。母が来てくれ。あやしのとこの パワーをつけてくれて ありがとうがけいしました。于ヨさんは 初対面だったにも関わらず。顔を見たとたん オビ安心しました。何でかな? 不思議。あの于ヨさんに。先生から「パートナーの于ヨさん!」と紹介され「あうわさはかかがね。よろしくお願ひしす」などと。わりと冷静だった自分を思い出す。今思ふと。私の出産は。大げさなだけで。余裕のあるお産だったのかも知れない。私に似ず。駿の毛ぶさぶさ 真黒い頭で生まれてきた勝太。狭くて暗い産道よく元氣張って出てきてくれました。ありがとう。

お産後のケアも。家族のよりに温く。人間と人間のつながり ~~を~~ を深く感じる事ができました。

毎日の処置(消毒) 清拭 母乳(マッサージ)。私はどこかのイスにしている様な気持ちでした。リラックスできる お部屋に 子供と2人。おたのめかに時間が流れていく。とても幸せな産褥ライフ。実家といえど。家に帰りたくないです。食事の献立。バランスがとれていて。みなさん絶賛するとあり 私も感謝でした。

次の子が授かる様な事があれば。またこちらにお世話になりたいと思っております。康江先生、于ヨさん。健康で若く。これから元氣張って下さい。

田島に帰ってきた時は。勝太をつれて 遊びに来る。5日間。本当にありがとうございました。

H16. 4. 1.

東京都墨田区
丸本